

# 高齢者のてんかん



監修：むさしの国分寺クリニック名誉院長 大沼悌一

## CONTENTS

てんかんは子どもと高齢者に多い病気です……………	3
高齢者てんかんの原因と特徴……………	4
高齢者てんかんの診断は?……………	7
見誤りがちなてんかん……………	8
高齢者てんかんの治療〈抗てんかん薬〉と注意点……………	10
日常生活上の注意点……………	13



高齢者のてんかんには、過去に発症したてんかんが継続している場合と、高齢者になって新たに発病した「高齢発症てんかん」の2つがありますが、この冊子では、特に断りのない限り、「高齢者てんかん」とは高齢（65歳以上）になって発症したてんかんのことを指しているとお考えください。

この冊子は、てんかん情報サイト「てんかん info (<https://www.tenkan.info/>)」から抜粋して作成しました。詳細はてんかん info をご覧ください。  
総監修：埼玉医科大学 名誉学長 山内俊雄

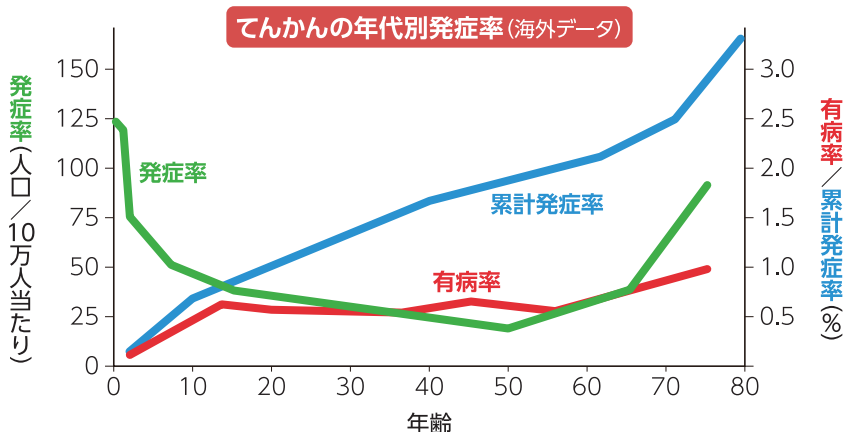
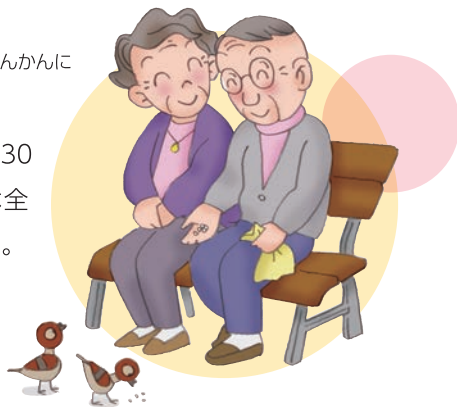
# てんかんは子どもと 高齢者に多い病気です

高齢者てんかんの年間発症率を調査した欧米の研究によると、人口10万人あたり、70歳以上では100人以上、80歳以上になると150人以上となり、70歳以上では10歳以下の小児よりも発病する頻度が高いという結果でした<sup>1),2)</sup>。別の調査では60歳以降のてんかん有病率は1.5%で、年齢が高くなるほどてんかんを持つ人が増加するという結果が得られています。

(日本てんかん学会ガイドライン作成委員会報告 高齢者のてんかんに  
対する診断・治療ガイドライン)

現在の日本の高齢者てんかんの有病者数は30～40万人にのぼると言われており、その数は全てのてんかん患者のおよそ1/3にあたります<sup>3)</sup>。

- 1) Hauser WA, Banerjee PN: Epilepsy 45-56, 2008
- 2) Olafsson E, Ludvigsson P, Gudmundsson G, et al.: Lancet Neurol 10, 627-634, 2005
- 3) WHO: Epilepsy Atlas, Switzerland 2005



出典：Anderson VE, Hauser WA, Rich SS. Adv Neurol 44:59, 1986

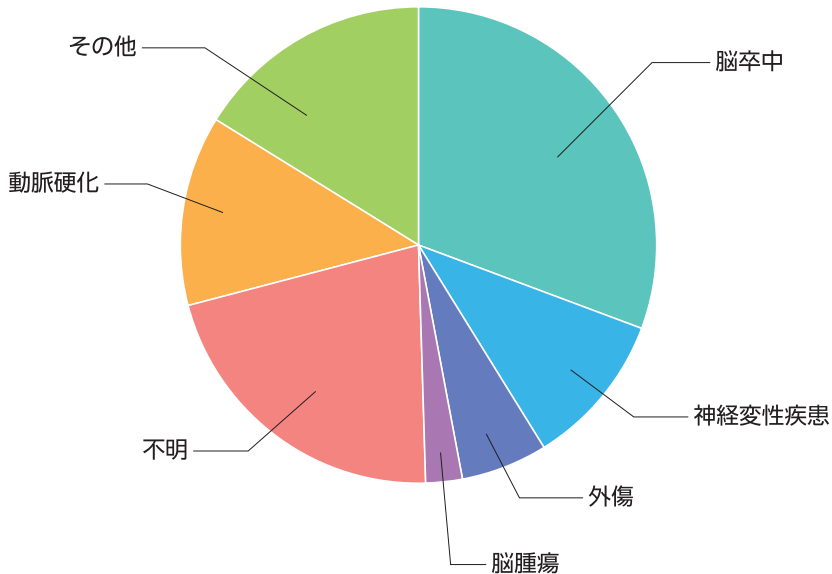
# 高齢者てんかんの原因と特徴

## 高齢者てんかんの原因

高齢者てんかんは、脳卒中やアルツハイマー病などの神経変性疾患（脳内の様々な場所で神経細胞が死んでしまう病気）、頭部の外傷、脳腫瘍などにより脳に何らかの障害が起きたり、脳の一部に傷がついたことが原因で起こります。しかし、全体の25～40%は原因不明とされています。

### 高齢者てんかんの原因

(標準的神経治療：高齢発症てんかんより)



出典：辻 貞俊ほか、神経治療学 29巻4号 p463

## 高齢者てんかんの特徴

### 大脳が障害された「部分てんかん」が多い

一般に高齢者てんかんの多くは部分てんかんで、脳卒中など原因がわかっている症候性てんかんが全体の約2/3、原因不明の特発性てんかんは約1/3で、特発性てんかんの割合が高い小児てんかんと大きく異なります。

症候性てんかんでは、側頭葉てんかんが最も多く（約7割）、次いで前頭葉てんかん（約1割）と考えられています。

## てんかんの分類

正確なてんかんの診断は、治療とその後の経過の見通しに重要な意味を持つため非常に大切です。

	特発性	症候性
部 分	<b>特発性部分てんかん</b> 中心・側頭部に棘波をもつ良性小児てんかん（ローランドてんかん） など	<b>症候性部分てんかん</b> 側頭葉てんかん 前頭葉てんかん 頭頂葉てんかん 後頭葉てんかん など
全 般	<b>特発性全般てんかん</b> 小児欠神てんかん 若年ミオクローニーてんかん など	<b>症候性全般てんかん</b> ウエスト症候群 レノックス・ガストー症候群 など

発作の種類を分類できない場合に、「分類不能」として取り扱う場合があります（新生児発作など）。

# 高齢者てんかんの原因と特徴

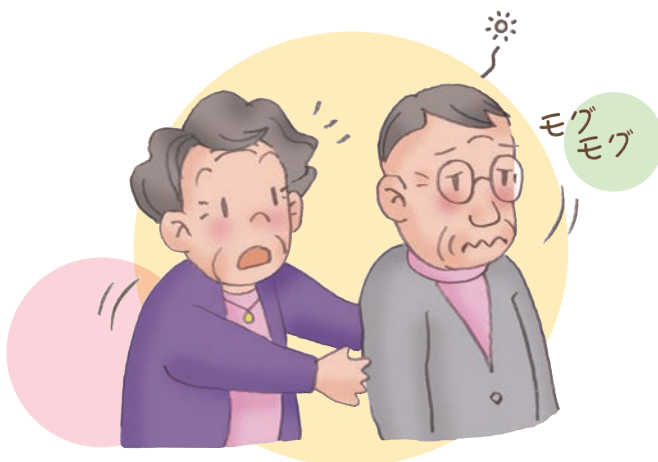
## 発作型は「複雑部分発作」が多い

高齢者てんかんは、部分発作の中でも意識障害を伴う複雑部分発作が多く、「非けいれん性」（けいれんがみられない）のため、てんかんの診断が遅れることが少なくありません。

また、約30%がてんかん重積状態を経験するといわれていますが、その多くは複雑部分発作の重積状態のため、けいれんを起こしません。

## 複雑部分発作とは

意識が徐々に遠のいていき、周囲の状況がわからなくなるような意識障害がみられる発作で、本人は発作のときのことを覚えてはいません。しかし、意識障害中に倒れることは少なく、たとえば、急に動作を止め、顔をボーっとさせるといった発作（意識減損発作）や、辺りをフラフラと歩き回ったり、手をたたく、口をモグモグさせるといった無意味な動作を繰り返す（自動症）などの症状がみられます。



# 高齢者てんかんの診断は？

高齢者に対するてんかんの診断も、他の年代と同じように、脳波、画像診断、問診などにより決定します。

## 脳波

高齢者てんかんでは、脳波によっててんかん波をみつけることができる割合が30～70%と決して高くないため、繰り返し脳波検査をすることが必要になる場合があります。また、脳波異常は睡眠時にのみ見られる場合が多いので、睡眠脳波チェックが必要になります。場合によっては、長時間持続ビデオ脳波モニター検査をすることもあります。



## 画像診断

高齢者の初めてのてんかん発作の場合は、てんかんの原因を診断するために脳の画像検査を行う必要があります。通常、MRI 検査が最も適切とされています。

## 問診

問診は診断の基本ですが、記憶障害のため発作中の症状をご本人に確認することは難しいため、家族や施設のスタッフなど発作を目撃した方が受診に同行して発作の様子（発作中に声をかけて反応があったか、口や手の自動症がなかったか、など）を主治医に話してもらおうと大変助かります。

# 見誤りがちなてんかん

高齢者てんかんでは、非常に短時間の意識障害がみられることがあり、半数に記憶障害が自覚されます。

例えば、1～2分間の意識障害と口をモグモグする(自動症)ような発作のある場合、会話中に発作を起こしても気づかれないことがよくあります。しかし、本人には発作時の記憶がなく話がかみ合わない、周囲から認知症や、うつ病などの精神的疾患と勘違いされることがあります。

一方で、失神やけいれん、異常な行動などの症状がみられる病気をてんかんで見誤ってしまうことがあります。ただし、脳血管疾患やアルツハイマー病などではてんかんを合併していることも多く、判別が難しいこともあります。てんかんであることを確認するためには脳波検査が行われます。

## 「高齢者てんかん」と「認知症」との違い

高齢者てんかんは・・・

- 状態が良い時と悪い時の差が大きい。
- 記憶がない時とある時が混在する。
- 意識が短時間(3～5分)とぎれることがある。
- 自動症(体をゆする、ボタンをいじる、など)がみられる。
- 睡眠中にけいれんがあることがある。





## 他の病気と見誤られる高齢者てんかん

精神科的疾患	心因性非てんかん性発作、うつ病、解離性障害、遁走、双極性障害、不安神経症、など
一過性全健忘	(反復することもある)
認知症	アルツハイマー病、など

## 高齢者のてんかん発作と見誤られることのある病気

心血管障害	失神、けいれん性失神、心不全、不整脈、など
脳血管障害	一過性脳虚血発作(軽度の意識障害を伴う場合)、など
片頭痛	脳底型片頭痛、など
薬物中毒	アルコール離脱、各種中枢神経作用薬、など
感染症	急性脳炎、慢性脳炎、寄生虫感染症、敗血症など
代謝性疾患	低血糖、高血糖、電解質異常、甲状腺機能障害、ポルフィリア、高炭酸血症、など
睡眠異常症	レム睡眠異常症、周期性四肢運動障害、夢遊症、夜驚症、など

日本てんかん学会ガイドライン作成委員会報告 高齢者のてんかんに対する診断・治療ガイドラインより

# 高齢者てんかんの治療<抗てんかん

## 1) 抗てんかん薬の効果が高い

高齢者てんかんでも一般的なてんかんと同様に抗てんかん薬による薬物療法が中心となります。高齢者てんかんは、小児期発症のてんかんに比べて薬による治療効果が高く、約90%の患者さんが抗てんかん薬の服用で発作が抑制できると言われています。また、少ない量でも効果があることが知られており、抗てんかん薬による治療を長期間続けても、治療効果が落ちることは少ないとされています。

ただし、高齢者は副作用を起こす可能性が高いため、抗てんかん薬を飲み始める場合には少ない量から徐々に増やしていくことが大切です。

## 2) 最初の発作から治療を開始することもある

一般的に、最初の発作では抗てんかん薬を飲み始めることはしないとされていますが、高齢者の場合、初回発作後の再発率が高いため、脳波でてんかん波がみられたり、原因と考えられる脳の病変が見つかった場合には、最初の発作後から治療を始めることもあります。

## 3) 抗てんかん薬とその他に飲んでいる薬との相性に注意

高齢のてんかん患者さんでは、脳卒中や高血圧、心臓病、腫瘍などいろいろな病気を合併している方が多いため、抗てんかん薬と他の治療薬との飲み合わせに注意する必要があります。抗てんかん薬を選択する際は、発作の種類だけでなく、合併する病気やその病気のために飲んでいる薬との相性(薬物相互作用)を考慮します。

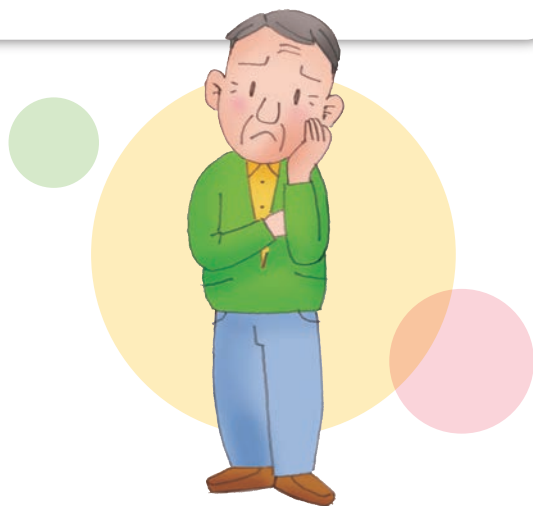
# 薬>と注意点

## 4) 肝臓や腎臓の機能低下に注意

高齢者では加齢により肝機能や腎機能が低下している可能性があり、さらに腎機能障害や肝機能障害を合併する高齢者では、抗てんかん薬によって効果が強く出ることもあるため注意が必要です。

### 副作用が心配で、薬を飲まないことがあるのですが…

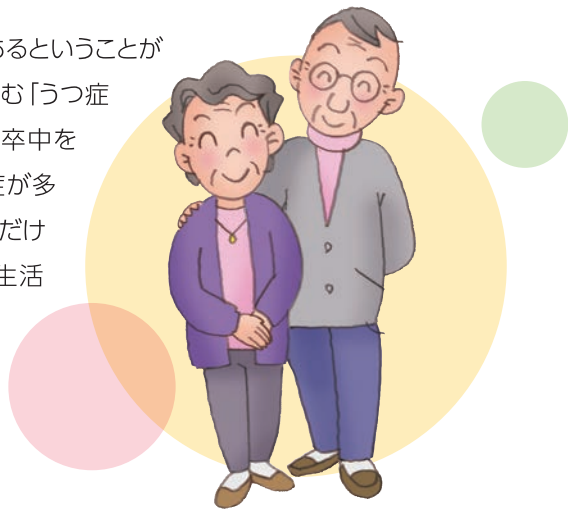
抗てんかん薬は長い期間飲み続けることから副作用が出ることもあります。副作用のことを気にして抗てんかん薬の服薬が不規則になる人がいますが、不規則な服薬により発作が起こって、そのために好ましくない結果を招くことがあります。抗てんかん薬としての効果を十分発揮して、副作用をできるだけ少なくするように薬を調整していきますから、何か異常を感じたり、様子に変化があれば、自己判断で服薬を中止しないですぐに主治医に相談しましょう。



## 合併症とつきあう

高齢者てんかんは脳卒中（脳梗塞や脳出血）や脳腫瘍のような脳の病気、あるいはアルツハイマー病のような神経変性疾患によって発病することが多いため、最初に起こした病気とてんかん、あるいはそれ以外にも合併する病気との付き合い方が大切です。

また、自分にてんかん発作があるということがストレスになって、気分が落ち込む「うつ症状」を生じることもあります。脳卒中を起こした後なども、うつ病の発症が多いことが知られています。できるだけストレスをため込まないような生活を送るようにしましょう。



## 家族の方へ

高齢者てんかんの90%以上は抗てんかん薬で発作が治まります、正しい診断と、適切な抗てんかん薬が処方されれば、てんかんを必要以上に恐る必要はありません。

主治医やスタッフから、発作のタイプに応じた家での注意点（発作の観察、介助の仕方など）を聞いておきましょう。

# 日常生活上の注意点

## 眠気やふらつきによる転倒に注意

抗てんかん薬の服用によって眠気やふらつきなどの副作用が出る場合があります、高齢者では転倒とそれに伴う骨折に注意が必要です。発作そのものでも意識を失っても体が動き続けていることがあり、事故には十分注意しましょう。

## 入浴

入浴時の発作は大変危険です。風呂場に鍵をかけない、湯量を少なくする、シャワーだけにする、転倒してもけがをしないようにマットを敷く、など工夫をしましょう。もし、浴槽で発作が起こったら、まずお湯から顔を上げて息をしやすいようにして、難しいようなら栓を抜いてお湯を落とします。そして意識が回復するのを待ってゆっくりお風呂から引き上げましょう。

## スポーツや趣味の活動はできますか？

楽しんで体を動かすことや、適度な緊張感が発作を抑制することが知られるようになり、てんかんであってもスポーツをすることは可能であることがわかってきました。ただし、発作を起こすことで生命の危険にさらされる場合や、旅行などで生活リズムが変化する場合には注意が必要です。

## アルコールを飲んでもいいですか？

アルコールがてんかんに悪い、という科学的根拠はありませんが、発作が誘発されることは少なくありません。その場合は睡眠不足や不規則な抗てんかん薬の服用などとアルコールが複合的に関係していることが多いです。ただし、飲みすぎると睡眠時間が短くなり、脳に対して好ましくありませんから、飲みすぎは控えましょう。



## 自動車の運転はできますか？

てんかんのある人の場合、運転免許の取得には医師の許可が必要となります。免許の更新時にも同様に毎回医師の診断書が必要となります。さらに夜間のみ発作など例外的な場合を除いて、2年以内に発作の既往が一度でもあると法律上運転はできなくなります。

自動車運転に関して以下の事柄をご確認のうえ、法令遵守を心がけてください。

- てんかんのある人の運転免許取得には、一定の条件が決められています
- てんかんのある人は、大型免許と第2種免許の取得は控えてください
  - ※運転を主たる職業とする仕事も、お勧めできません。
  - ※5年以上発作がコントロールされていて服薬も終わっている場合に運転適正があります  
(日本てんかん学会)
- 病状が安定し運転免許の取得・更新を考えるときは主治医に相談しましょう
- 運転免許の取得・更新の際には、病状を正しく申告しましょう
- 体調不良や抗てんかん薬を飲み忘れた時などには、運転を控えましょう
- 運転に支障が生じる状態になった時には、運転適性相談窓口(運転免許センターなど)に相談しましょう。
- 「改正道路交通法」「自動車運転死傷処罰法」によって、以下の点が変更になりました。
  1. 免許の取得・更新時の質問票に虚偽回答をして事故を起こすと罰則が科せられることがあります。
  2. 病気の症状等を理由に免許が取り消しになった場合は、取り消しから3年未満に運転適性の状況が回復すれば、試験免除で免許の再取得が可能になりました。
  3. 運転をすることができない状態であるのに運転を続ける人を、医師が公安委員会に届け出ることができます。
  4. 運転してはいけない状態であることを承知しながら運転し、死傷事故を起こした場合の刑罰が重くなりました。

※抗てんかん薬の使用によって自動車運転に注意が必要となる場合がありますので、主治医とご相談ください。

# 「てんかん info」

日本で約100人に1人の割合で発現するといわれる身近な病気「てんかん」。

てんかんをお持ちのご本人はもちろん、ご家族、周りにいる人が一緒に語り合えるように、「てんかん」に関する情報を発信しています。



知っておきたい  
てんかん情報



いっしょに知ろう  
「てんかんストーリー」



お役立ちツール

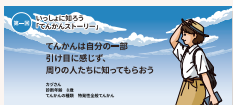


服用解説動画

てんかんにまつわる基本的な情報を動画や、わかりやすいイラストと図表を用いて解説しています。

- てんかんとは
- 診断と治療
- 発作時の対処法
- 日常生活と支援制度
- 「てんかん for School」など

てんかんをお持ちのご本人やご家族、関係者の方などの体験エピソードをご紹介します。



ダウンロードしてご利用いただける、てんかんの診断や治療、生活上の注意などをまとめた資料・冊子を配布しています。



服用についての注意点や、正しい服薬のポイントなどを動画でご紹介しています。



てんかん情報ウェブサイト「てんかん info」  
<https://www.tenkan.info/>





## 緊急連絡先

医療機関名

連絡先

あなたの主治医

あなたの医療スタッフ



ユーシービージャパン株式会社